

ベルベット・レボリューション

永保 立野友佳（日本福祉大学教授）

東欧では、今進みつつある一連の変革を「ベルベット・レボリューション」と呼んでいる。この変革が「ピロード革命」と呼ばれる由縁は、いずれの国もおおむね無血革命かそれに近い状況で変革されつつあること、加えて、これらの変革が「革命」と意識されているためである。

本年5月、久しぶりに訪問した東欧で私が感じたのは、それが日本で言えば敗戦直後にきわめてよく似た状況を呈していたことである。戦時下の抑圧から解放され、よくはわからないが「平和」「民主主義」というすばらしい社会がやってくる。今日はおなかがいっぱい、明かるい明日が待っている…。社会主義体制の崩壊が、そんなふうに受け止められている様子である。

ことに東ドイツでは、すでに西ドイツへの併合が決定した後であったが、子供と生活の基本を徹底的に重視した福祉体制が危機にひんしている状況のもとで、多くの国民は社会主義体制を「重圧」と受け止めていた事実は、私にとって少なからぬショックであった。

こうした受止めかたがもっと顕著にあらわれたのはチェコスロバキヤで、この国ではかつての政権党の得票が5%にも満たない結果になってあらわれた。反共の声がほとんど聞こえないのでその理由を尋ねると、選挙結果で社会的な影響をほとんど持たないことがわかったので、批判もされなくなってしまったという。それに対して総選挙を1カ月後に控えていたハンガリーでは、街中反共の嵐といった趣で、一旅行者の見聞の範囲では社会主義政党の反論はまったく見あたらない状況であった。

われわれは、これまでに革新自治体の経験を経てきているが、その経験と社会主義の経験の受止めかたとはかなり差があるようである。社会主義体制がその国民にとってなぜ「悪い」と判断されるのか、どうしても回答が得られぬままに、資本主義の発展段階の違いとは別次元の比較検討が必要だと感じつつ帰国した次第である。

(もり やすお・当研究所員)

モスクワ・レニングラードの旅

富田 偉津男

国税東海結成30周年を経て、OB会の組織化3周年の今年、全国税らしい記念行事「海外旅行」を計画し、多数の賛同を得てソ連旅行が決定し4月28日から5月7日まで、モスクワ・レニングラードを旅してきた。以下その印象を記してみました。

1 メーデー色のモスクワ

4月28日夜半に到着、29日朝10時にソ連インツォリスト派遣のガイドの案内で早速クレムリン赤の広場に行きました。メーデー直前のモスクワは街のいたるところに飾り付けがあり、赤・黄・青色とりどりの旗が立てられ、社会主義国ソ連に來たという実感が湧きました。赤の広場にはマルクス・エンゲルス・レーニンのものすごく大きな肖像画が飾られ壮観でした。

レーニン廟を参観する長蛇の列が続き、革命の父レーニンが根強い人気を保っていることがわかりました。名物の衛兵の交代も見て満足。この赤の広場にはたくさんのソ連のお上りさんがおり、観光名所となっているようでした。

2 レニングラードで反核署名

メーデー当日はレニングラードでした。今年のメーデーで集会も行進も行なわなかったのはレニングラードだけでしたが、宮殿広場では帝政ロシアやデカブリストの旗を掲げた反政府集会が約1000人ほど集まり、KGBの監視下で行なわれていました。日本から持参した「われらは核兵器に反対し平和を愛する日本の国税労働者」という横断幕を掲げ反核署名を開始したところ、黒山の人だかりとなり制服の軍人までが署名をするなど、短時間に500名余の署名が集まりビックリでした。子供づれの母親、青年、広場に遊びに來た人達が、政府の方針などものかわで署名に応じたばかりか、私たちにサインを求めるなど核兵器禁止は世界人民共通の課題ということを改めて認識しました。

ロシア政府の方針に反対する反核署名の実施には、内心ではKGBもしくは民警などからクレームがつくのではないかと心配していましたが、妨害は一切ありませんでした。空港で飛行機や軍用機を写真にとっても制止はなくペレストロイカと、緊張緩和の影響が感じられました。

3 二重価格と消費生活

通貨の交換比率は1ルーブル27円と以前に比べると、ルーブルは10分の1に切り下げられました。ところがルーブルを持って街に買い物に行っても、絵葉書とか切手とか黒パンとかの類しか、購買欲をそそるものがなくデパートに行っても閉店寸前のスーパーと思うぐらい、商品は少なくルーブルは使う機会がありません。ところが外貨ショップのベリョースカには世界の商品があり、タバコ・ビールをはじめキャビア・琥珀などの土産品は、ここで買うことになります。

ところがこのベリョースカでは1ルーブルは270円なのです。ソ連政府がい

かに外貨獲得に必死になっているかがわかります。

ロシア人民の生活は政府の補助により安定していました。習い覚えたロシア語を駆使して街の食料品店に入り、黒パンを買ったところ40センチもの長さのものが約60円、地下鉄はどこまで乗っても1円35銭とビックリでした。

ただし野菜や、肉はものが少ないせいどこでも行列で、農業の不振を物語っているようでした。その後ルイシコフ首相の市場経済導入によりパンなどの、食料品が3倍になるとの発表で、買い占めが起こったようですが、私たちの滞在中には国民の生活はそれなりに安定しているようでした。

若者や娘さんたちの着ているものも結構カラフルで、それなりのおしゃれを楽しんでいるようでした。

4 巨大な闇の地下帝国と腐敗しつつあるソ連社会

ホテルでも観光地でもうるさく付き纏うのはヤミ屋です。「チェンジマネー」あるいは「キャビア」そして「マトリョーシカ」（ソ連産こけし）の売人です。

ドルはヤミレートでは公定の10倍、キャビアはベリョースカ価格の50%など旅行者にとっては好条件ですが、善良な税務署員としては最後までヤミに手が出ませんでした。ただしキャビアだけはホテルの従業員から買ってきました。

これらから職業的感覚にヒラメキタのは、巨大な闇の地下帝国の存在です。事実あれこれの本をひもといても、街にはものがなくてもヤミでは車であれテレビであれなんでも手に入るようです。戦中戦後日本の統制経済時代のヤミの横行が思いだされます。

また外貨専門のレストランではショーを見ながら食事をしましたが、驚きだったのはそのショーはストリップ同然であったことです。更にビックリだったのは売春婦が公然と商売していることで、ホテルの部屋の中まで「アロー」と誘いに来たことです。これもまた今日の「ソ連邦」なのです。

しかし街であったソ連人たちは実に人懐っこく底抜けに善良でした。そしてエルミタージュ美術館を初め、美術と歴史の遺産を大事にするこの国の文化に明日の期待を感じ、皆さんにも「資本主義ナイズ」される前のソ連に是非旅行されることをお勧めして私の観光印象記をおわります。



研究会だより

愛知労働問題研究所婦人労働部会

婦人労働部会のお知らせと参加のお願い

7月に2つの部会をそれぞれ行い報告と活発な論議を深めました。

「コース別雇用制度の現状と問題点」では、銀行、金融機関、商社、損保（導入が計られたがたなあげ）のそれぞれの職場から、導入にいたる経過、コース別雇用・管理の内容、労働組合の対応、導入後の職場の実態、コース別雇用・管理の問題点などを報告していただきました。報告の後の討論では、コース別が男女差別の固定化と新たな再編、総合職と一般職の内容と問題点・矛盾、査定の基準と運用の問題、労働組合の役割など活発にだされそれぞれの共通性と問題点がかなり浮きぼりになりました。

9月の「コース別雇用制度」の部会は、制度の具体的資料を使い金融機関、損保の制度と実態、問題点について論議を深めました。関心のある方は連絡の上で参加下さい。

「育児休業・看護休暇の現状と問題点」では、国公、自治労、名古屋市職労、県職の各育休・看休の制度と活用の現状と問題点について報告してもらい論議と交流を深めました。今回は、制度の実状を資料をつかって深めながら、学習と制度要求に向けて検討を深めることにしています。関心のある方はご参加下さい。

コース別雇用・人事制度研究部会

と き：10月11日（木）午後6時から9時

ところ：名古屋南部法律事務所（地下鉄伝馬町下車・1番出口すぐ横・南陽ビル3・4階・682-3211）

内 容：銀行のコース別人事制度の現状と問題点

コース別人事制度を考える連絡会（大阪）報告

「コース別雇用管理に関する研究会報告書」（女性職業財団）

育児休業・看護休暇研究部会

と き：9月11日（火）午後6時から8時30分

ところ：名古屋市婦人会館（地下鉄東別院下車東徒歩5分・331-5288）

内 容：「育児休業・看護休暇」（川口・中嶋監修 学習の友）論議

育児休業・看護休暇の制度（資料持ちより）と課題

経営分析研究会のお知らせ

第4回研究会は、中小企業労働組合の経営分析として、全国一般愛知あいち支部日本アクリル分会からの報告でした。報告は、会社提供資料を使って、山口先生の「働くものの経営分析教室」の成果をふまえて整理された資料を使ってのものでした。討論では、外資系企業の収益と株主配当、内部留保の算定、収益率をどうみるか、利益隠しの操作方法など多彩に論議し、富田（全国税）さんから適切な助言をいただきました。日本アクリルの経営分析は専門家の助言をいただいて10月にさらに論議を深めることにしました。9月は、富田さんによる「働くものの経営分析のための基本」について報告していただきます。多数ご参加下さい。

第5回 経営分析研究会

と き：9月14日（金）午後6時30分から9時まで

ところ：名古屋市婦人会館（地下鉄東別院下車東へ徒歩5分331-5288）

内 容：労働者・労働組合の経営分析の基本—基礎資料、簿記・会計、利益、内部留保、利益かくしなど

報 告：富田偉津男（全国税）

第6回 経営分析研究会

と き：10月12日（金）午後6時30分から9時まで

ところ：名古屋市婦人会館（地下鉄東別院下車東へ徒歩5分331-5288）

内 容：中小企業労働組合の経営分析—全国一般愛知あいち支部

日本アクリル分会の経営分析について

報 告：谷江武士（名城大）

日本経済分析研究会のお知らせ

と き：10月2日（火）午後6時30分から9時まで（後懇親会）

ところ：中京大学（八事）研究棟小会議室

内 容：日本のODAの現状と問題点

報 告：毛利良一（日本福祉大）

* 参加希望の方は研究までご連絡下さい。

あいち職場の健康問題研究会だより

あいち職場の健康問題研究会創立2周年記念第2回

—在職中死亡をなくしいのちと家庭を守る—

人間らしく生き働くための愛知集会

と き：1990年9月22日（土）午後1時30分から6時30分

ところ：愛知県産業貿易会館西館第1会議室（200名）

（052-231-6351、地下鉄市役所下車徒歩10分）

内 容：愛知の健康問題のとりくみこの1年
職場からいのちと健康を守るたたかい
地域からいのちと家庭をまもる
健康で人間らしく生き働くために（山田信也）

参加費：300円（会場費・資料代）

*詳細は別紙ビラ参照

第13回あいち職場の健康問題研究会

と き：10月13日（土）午後2時から5時30分

ところ：愛労連2F会議室（262-1377）

内 容：働く女性の健康問題

報 告：ILO夜勤問題と働く女性（小野雄一郎・名大医学部衛生学）
看護婦の夜勤・長時間・過密労働・健康破壊と増員のたたかい
（愛知医労連）ほか

第14回あいち職場の健康問題研究会

と き：12月8日（土）午後2時から5時30分

ところ：名古屋市婦人会館（地下鉄東別院下車）（予定）

内 容：過労死・在職死の保障制度問題

報 告：過労死・在職死と保障問題（水野幹男・名古屋過労死弁護団）
在職死の企業保障の実態（愛知職自連）ほか

研究所だより

第4回調査・政策学校開かれる

9月1・2日と形原温泉・木村館で37名の参加のなか第4回調査・政策学校が開かれました。最初に、大木学校長から開校のあいさつがあり、続いて労働問題実践シリーズ第2巻「人間らしく働く」の金田豊さんから「職場の点検活動からはじめよう」の講義を受けました。講義は、第2巻の成果をふまえながら、(1)要求による結果は点検活動から、(2)労働者と労働組合の権利の確立が、労働諸条件の設定や合理化の方向を規制する、(3)人間らしく働く上での当面の点検活動の課題について、を柱に点検活動の視点・観点を当面するたたかいとの関連で話されました。

第2講義は、日本福祉大の長沢孝司さんから「調査票のつくり方」と題して実践問題を含めて話されました。講義の柱は、(1)調査票の全体構成、(2)フェイスシート、(3)質問文作成の注意、(4)選択肢作成の注意、(5)その他の工夫で、具体的な事例も取入れながらの話でした。講義の後実践問題として愛労連青年協のアンケートについて検討を加えました。

夜の全体交流は、夕食をはさんで、参加者1人1人に講義の感想・意見、自己紹介、労組よ職場のたたかいなどを報告してもらい交流と懇談を深めました。

2日目は、研究所事務局長の伊藤欽次さんから「賃金闘争の要求づくりと調査」と題して、90国民春闘、いままでの賃金闘争をふまえつつ、賃金闘争の原則的な問題、(1)賃金の現状と賃金要求の切実さ、(2)調査なくして発言なし、準備なくして交渉なし、(3)要求づくりは運動の出発点―賃金要求の組織のあり方、(4)要求づくりのための調査、(5)賃金要求方式―過去、現在、見直しの視点を柱に話されました。講義後の討論も活発に質問・意見が出されました。(講義のレジメ・テープ研究所にあります。会員の方は実費にて利用できます)

愛知労働問題研究所第2期プロジェクト研究

第5回「多数派形成」調査・研究会

と き：9月29日(土)午後6時から9時まで
場 所：愛知県青年会館第6会議室(221-6001・納屋橋クラウンホテル南)
内 容：新聞労連中部経済新聞労働組合の活動―分裂から組織統一をして
報 告：加藤鎮男(新聞労連中部経済労組)

*今回は、中部経済新聞労働組合の経験を聞かせていただきます。参加を希望される方は研究所まで連絡下さい。

愛知労働問題研究所設立3周年

記念のつどい

と き：10月7日（日）午後1時30分～4時30分

ところ：愛知県青年会館2F第2会議室（100名）（221-6001）
（納屋橋・クラウンホテル南）

内 容：記念講演「激動の東ヨーロッパ東ドイツで1年留学・生活して」
宮崎鎮雄（愛知大教授・当研究所理事長）

*宮崎先生は9月に無事帰国されました
研究所活動この1年とこれからの研究所活動（懇談と交流）

参加費：会員無料・非会員300円

懇親会

と き：10月7日（日）午後5時から

ところ：愛知県青年会館2F第2会議室（221-6001）

内 容：研究所活動についての懇談・交流・懇親

参加費：3000円

*都合で懇親会のみ参加でも結構です

連絡先：〒456 名古屋市熱田区三本松8-2

愛知労働問題研究所・あいち職場の健康問題研究会

電話・FAX 052(871)5603

*研究所は、専従体制ではないので、所員が交代で月曜から金曜日に午前10時から午後5時まで常駐しています。都合で外出するときもありますので、連絡は、午前中の方が確実です。FAXは、電話番号と同じで24時間受信できます。

*大変暑い夏がおわり秋の季節となりました。研究所も第2期2年次の3年目を迎えます。研究所活動の一層の前進のために共に頑張りましょう。月報は8月お休みで8・9月合併号です。研究会、記念集会ぜひご参加下さい。今年次の会費もよろしくお願いします。